



リーマンショックならぬ「旧統一教会ショック」

旧統一教会との関わりで安倍元総理の「お友達」と言われる下村博文氏が苦境に立たされている。

下村氏は、国会議員になる前は学生塾を営む傍ら都議会議員を務めていたが、もとより日本の教育改革に熱心であった。

国会議員になってからは、私の地元選出でもあり、私は博文会(支持団体)で講演をしたこともあったことから下村氏への関心が深かった。

右翼的と言われる日本会議などにも関係し、安倍元首相と共に、アメリカに押し付けられた戦後の教育を自主教育に戻さねばならないと主張し、博文会でも文部科学大臣になることが夢だと語っていた。

日本の安全保障についても安倍元首相と同じく「自主防衛」を基本指針とし、安倍氏の「日本を取り戻す」に共感していた。

旧統一教会は、靈感商法等問題はあったが、主張するところは日本会議同様であることから下村氏は親近感を抱いていたのだと察する。

文部科学大臣当時、政治家として当然のこととして言質や証拠は残していないものの、旧統一教会の靈感商法など悪しきイメージを払拭するための名称変更に協力したのは確かだろう。

旧統一教会と何らかの関係を持った議員は自民に限らず野党にも多く居る。

2008年10月のパブル崩壊で、ユダヤ資本のみならず、反ユダヤ、非ユダヤ、独立系の資本も破綻に追い込まれた。

国民の税金でユダヤ系、その他を救済するには誰かがスケープゴード(生贄)にならなくてはならなかった。

下村氏の議員会館内の事務所が森元首相と隣り合わせであったこともあって、下村氏は森氏の進言に従いながら、党内で出世をしていった。

リーマンショック時、国際基軸通貨ドルの自由裁量権を持つユダヤ資本の代理人であり合衆国の財務長官であったヘンリー・ポールソンがリーマン・ブラザーズに「お前死ね」と言い、リーマン・ブラザーズは破綻に追い込まれた。

安倍氏亡き後自民党のキングメーカーになった森氏は下村氏に「お前死ね」と言っている。

リーマン・ブラザーズが死ぬことで破綻状態に陥った金融界を税金で救ったと同様に、森氏は下村氏をスケープ・ゴード(生贄)にすることで自民党を救おうとしている。

スケープ・ゴード(生贄)とは、悪事を永遠に続ける為に、いったん悪事を止めたかに見せる為に必要なトリックである。

下村博文先生、ご愁傷さま！

大好評発売中！増田俊男の小冊子 Vol.128

<何よりも歴史の裏(真実)と表(偽物)を知ることが先決>

現在増田俊男の小冊子 Vol.128 は大好評発売中です。内容は*すべては「禁断の木の実」から始まる*ユダヤ資本がアメリカを捨てる時 *金融が駄目なら財政がある、だから東西冷戦があるのだ*人間の欲(資本)が決める世界新秩序 *こんな時だからこそ大儲けが出来るなどです。価格は、1冊 4,800円(税・送料別)。詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313、HP: <http://chokugen.com/>) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。